



東京通信病院ニュース

Vol. 103

けんこう家族

発行 / 東京通信病院

平成24年1月1日

〒102-8798
東京都千代田区富士見2-14-23
TEL 03 (5214) 7111(代)

http://www.hospital.japanpost.jp/tokyo/

東京通信病院は財団法人医療機能評価機構が実施する病院機能評価の認定病院です。

認定第J C 2 1 5号

年頭のご挨拶



東京通信病院 病院長
木村 哲
きむら さとし

皆様、新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお祈り申し上げます。

大震災の当日は電車が止まり、車も大渋滞で動けず、東京通信病院には帰宅できなくなった外来患者さま、ご家族の方々、お見舞いの方々が大勢おられました。外来ロビーなどで、急遽用意したおむすびや水、毛布などで何とか一夜を過ごして頂きました。当院では入院患者さまを含め、人的被害が無かったことがとても幸いです。

発生し、EUの経済不安も表面化しました。今年こそは災害や争い、経済不安の無い、安全・安心な年でありませうようにと祈らずにはいられません。地震や津波は自然現象ですので、現在はその発生を食い止めることはできませんが、原発事故は「安全神話」が無ければ防げたはずのものでした。広島、長崎の経験を持つ日本国民を納得させるために安全神話は必要だっ

たのでしたが、神話を掲げ、これを「誠意に満ちた医療を実践すること」によって成し遂げようと頑張っている。誠にこそが「医」の原点であり、www.hospital.japanpost.jp/tokyo/または「東京通信病院」で検索にアクセスして頂けると幸いです。

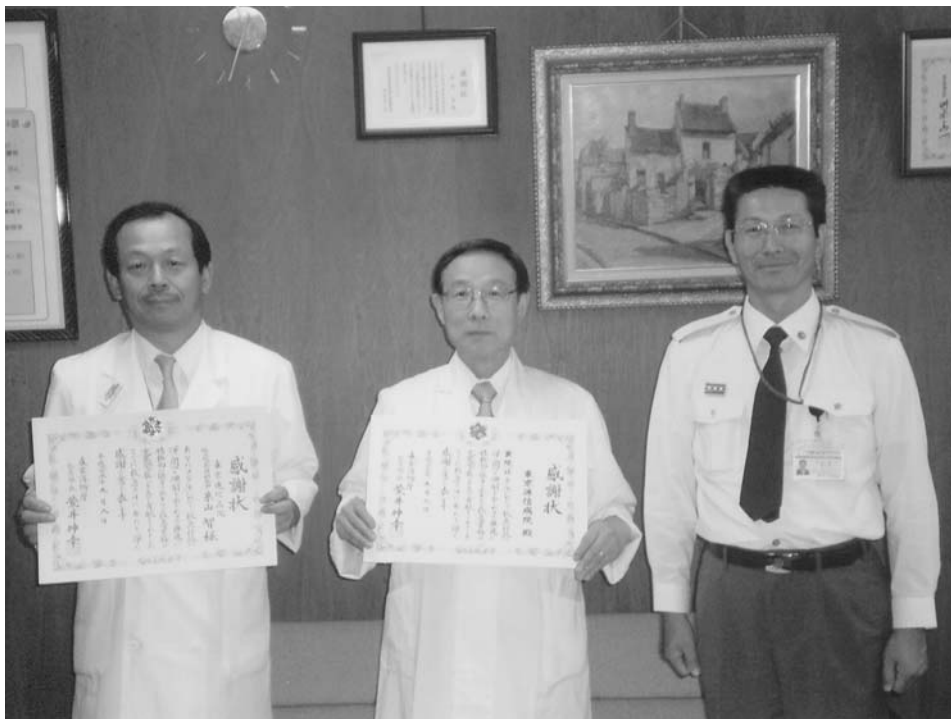
今年新しい試みとして、患者の皆さまの日常生活の改善や症状の改善に配慮した医療がどの程度行えているか、医療の質の向上にどれくらい貢献できているかを客観的に評価し、それが少しでも向上するよう努めていくことといたしております。また、「がん難民を作らない」との目標に沿って「がん診療病院」として東京都の認定を取得するよう、更に準備を加速させることといたしております。「がん相談支援室」も昨年10月からオープンしています。何かありましたら気軽にお願いします。新年のご挨拶とさせていただきます。

利用者の皆さまに満足いただけるよう心掛けて参りますので、本年も叱咤激励のほど、よろしくお祈りいたします。今年新しい試みとして、患者の皆さまの日常生活の改善や症状の改善に配慮した医療がどの程度行えているか、医療の質の向上にどれくらい貢献できているかを客観的に評価し、それが少しでも向上するよう努めていくことといたしております。また、「がん難民を作らない」との目標に沿って「がん診療病院」として東京都の認定を取得するよう、更に準備を加速させることといたしております。「がん相談支援室」も昨年10月からオープンしています。何かありましたら気軽にお願いします。新年のご挨拶とさせていただきます。

「誠意に満ちた看護」、今年も利用者の方々と「心のかような看護」を心がけています。今年も利用者の方々と「救急難民を作らない」、「がん難民を作らない」との目標に沿って「がん診療病院」として東京都の認定を取得するよう、更に準備を加速させることといたしております。「がん相談支援室」も昨年10月からオープンしています。何かありましたら気軽にお願いします。新年のご挨拶とさせていただきます。

「誠意に満ちた看護」、今年も利用者の方々と「心のかような看護」を心がけています。今年も利用者の方々と「救急難民を作らない」、「がん難民を作らない」との目標に沿って「がん診療病院」として東京都の認定を取得するよう、更に準備を加速させることといたしております。「がん相談支援室」も昨年10月からオープンしています。何かありましたら気軽にお願いします。新年のご挨拶とさせていただきます。

「誠意に満ちた看護」、今年も利用者の方々と「心のかような看護」を心がけています。今年も利用者の方々と「救急難民を作らない」、「がん難民を作らない」との目標に沿って「がん診療病院」として東京都の認定を取得するよう、更に準備を加速させることといたしております。「がん相談支援室」も昨年10月からオープンしています。何かありましたら気軽にお願いします。新年のご挨拶とさせていただきます。



平成23年9月8日、東京消防庁から多年にわたる救急行政に深い関心と理解があり、その推進に積極的に協力し救急業務の充実発展に多大な貢献をされた医療機関との評価をいただき、東京通信病院及び当院職員1名が感謝状をいただきました。当院は、今後とも地域の中核医療機関として地域の救急医療を支えるべく「救急難民を作らない急性期医療機関」をスローガンに、救急医療の一翼を担うべく職員一同、さらに努力していく所存です。



東京消防庁より感謝状をいただきました

スポーツ外傷・障害と関節鏡 (後編)



整形外科 医師 中山 修一

(関節鏡を世界ではじめ 実用化した病院)

今回はスポーツ整形外科・関節外科の飛躍的な発展を支えた関節鏡について、お話ししました。

道具です。カメラの映像をテレビモニターに映すことで膝関節の内部をとっても大きくかつ、鮮明に映し出すことができます。

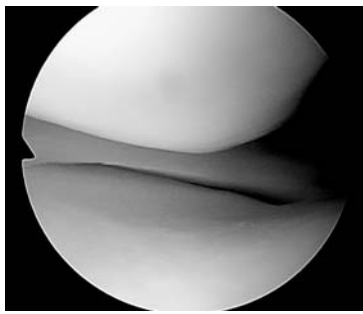
実はこの関節鏡を世界で初めて実用化したのは東京通信病院なのです。

（画像2・3）。膝関節に使用するのは直径4mmです。非常に小さい傷で行うことが可能です。

（画像1）。細長い棒を関節のなかに挿入して、関節内を観察する



画像1 関節鏡



画像2 関節鏡の映像 正常な関節内



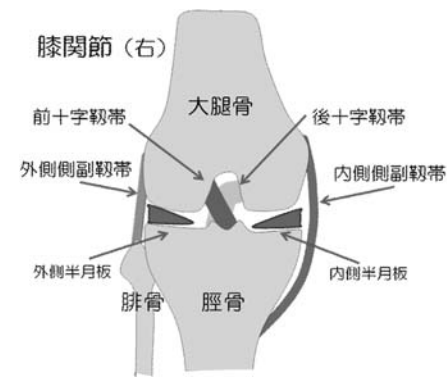
画像3 関節鏡の画像 正常な前十字靭帯



画像4 関節鏡視下手術の様子(膝) 傷は「小指の爪の幅」程度



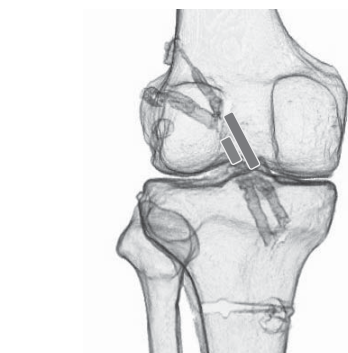
画像5 手術の様子 大きなモニターに映った関節の映像を見ながら手術を行う



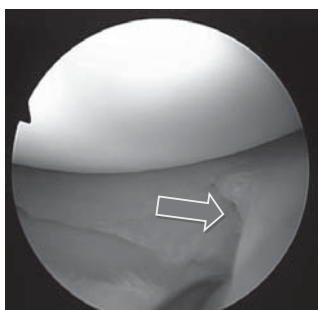
画像6



画像7 関節鏡の映像 再建された前十字靭帯



画像8 前十字靭帯再建術後の3DCT 2本の靭帯が解剖学的に再建されていることがわかる



画像9 関節鏡の映像 半月板の断裂

(後編)

可能です（画像4・5）。鏡を使用した手術は現在では肩関節・肘関節・手関節・股関節・膝関節・足関節などで応用されており、世界中で使用されています。

高度な手術を行っています。中嶋寛之先生の後輩である東京大学整形外科の膝・スポーツのグループではその手技を正確に引き継いでいます。もちろん、東京通信病院の医師も同様にこの手技をマスターしており、後輩に引き継いでいます。

(膝前十字靭帯損傷)

我々の最も得意とする治療のひとつが、膝関節の中にある前十字靭帯（画像3・6）損傷です。前十字靭帯損傷は日本国内で毎年2万程度が受傷しており、そのうち1万4千人程度が手術を受けていると推測されています。膝関節内にある前十字靭帯は自己修復されず、ほとんど治りません。この靭帯が機能的に働かないと「ひざくずれ」と呼ぶ、膝関節の亜脱臼が容易に起こるようになります。

診断には特殊な徒手検査をマスターしている必要があります。N(中嶋)テストといわれるこの手技は感覚がとても高いのですが、これを満足に行える医師は実は多くありません。そのため、不幸にして長い間診断がつかないままにいる人も少なくありません。開発者の中嶋寛之先生の後輩である東京大学整形外科の膝・スポーツのグループではその手技を正確に引き継いでいます。もちろん、東京通信病院の医師も同様にこの手技をマスターしており、後輩に引き継いでいます。

さて、この前十字靭帯も劣化して痛むことがあります。診断には詳細な診察とMRIが有効です。スポーツ活動で痛めた半月板損傷はなかなか治らないため、手術に

大きくなります。損傷した靭帯はめったに再生しないために靭帯を作り直す手術（再建術）を行います。最近では技術が洗練され、複雑な手術も関節鏡視下で行うことが可能です（画像7・8）。手術成績は非常に安定しており、多くの選手がスポーツ復帰を果たしています。

（半月板損傷）

（肩関節）

（半月板損傷） 膝関節の太腿の骨（大腿骨）とすねの骨（脛骨）の間には半月板という軟骨（画像2・6）があります。これはスポーツ活動で痛む（画像2）小さい傷での修復が可能

（肩関節） 肩関節の脱臼を繰り返す反復性脱臼や、肩のすねの骨（脛骨）が痛む腱板損傷

（足関節） 足首の関節（足関節）には捻挫の後遺症として、骨棘（こつきよく）の障害があります。足首の関節（足関節）には捻挫の後遺症として、骨棘（こつきよく）の障害があります。足首の関節（足関節）には捻挫の後遺症として、骨棘（こつきよく）の障害があります。

（足関節） 足首の関節（足関節）には捻挫の後遺症として、骨棘（こつきよく）の障害があります。足首の関節（足関節）には捻挫の後遺症として、骨棘（こつきよく）の障害があります。

このように、関節鏡を使用して治療を行っています。もちろん、スポーツ外傷・障害は低い侵襲（体には与える影響が少ない）に治療できます。専門外来ではより時間を取って診察できるため、スポーツ活動に不安をお持ちの方、膝や肩関節でお悩みの方は専門外来の受診をお勧めします。

（肩関節） 肩関節の脱臼を繰り返す反復性脱臼や、肩のすねの骨（脛骨）が痛む腱板損傷

（半月板損傷） 膝関節の太腿の骨（大腿骨）とすねの骨（脛骨）の間には半月板という軟骨（画像2・6）があります。これはスポーツ活動で痛む（画像2）小さい傷での修復が可能

（足関節） 足首の関節（足関節）には捻挫の後遺症として、骨棘（こつきよく）の障害があります。足首の関節（足関節）には捻挫の後遺症として、骨棘（こつきよく）の障害があります。

（半月板損傷） 膝関節の太腿の骨（大腿骨）とすねの骨（脛骨）の間には半月板という軟骨（画像2・6）があります。これはスポーツ活動で痛む（画像2）小さい傷での修復が可能

（肩関節） 肩関節の脱臼を繰り返す反復性脱臼や、肩のすねの骨（脛骨）が痛む腱板損傷

（足関節） 足首の関節（足関節）には捻挫の後遺症として、骨棘（こつきよく）の障害があります。足首の関節（足関節）には捻挫の後遺症として、骨棘（こつきよく）の障害があります。

（半月板損傷） 膝関節の太腿の骨（大腿骨）とすねの骨（脛骨）の間には半月板という軟骨（画像2・6）があります。これはスポーツ活動で痛む（画像2）小さい傷での修復が可能

（肩関節） 肩関節の脱臼を繰り返す反復性脱臼や、肩のすねの骨（脛骨）が痛む腱板損傷

（足関節） 足首の関節（足関節）には捻挫の後遺症として、骨棘（こつきよく）の障害があります。足首の関節（足関節）には捻挫の後遺症として、骨棘（こつきよく）の障害があります。

放射線と被ばくについて



放射線科
医療技術主任
齊藤 謙一

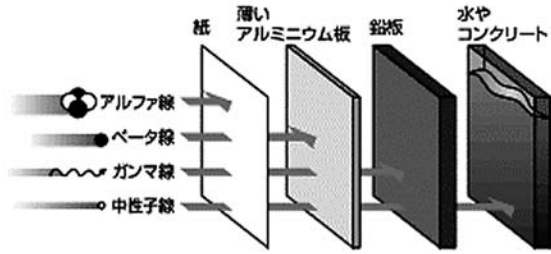
昨年の春に起きた未曾有の震災に伴う福島第一原発事故により、多くの国民の皆さんは放射線に対して不安を持ったこととされています。放射線を取り扱うことを職業としている者として、この不

安を少しでも取り除けるよう、またマスコミで報じられている内容を正しく理解できるように放射線に関する用語などについて解説をしていきたいと思

まず初めに理解していただきたいのが、「放射線」と「放射能」の違いについてです。放射能とは「放射線を出す能力」のことであり、単に放射性物質の放射線を出すこととあります。また放射線とは放射性物質から飛び出した「高速の粒子や光の仲間(電磁波)」のことであり、高速の粒子にはアルファ線、ベータ線、中性子線などがあり、光の仲間にはガンマ線、医療で

最もよく使われるエックス線などがあります。この放射線の種類とエネルギーにより、人体に影響を及ぼす範囲や症状が異なってくるため、防護の仕方や影響を考慮する計算方法が異なり、放射線の影響を理解することを複雑なものにしています。次に放射線に使われている単位について説明します。グレイ、シーベルト、ベクレルとあるのですが、聞き慣れない言葉に加えて、メガ(M)、キロ(k)、ミリ(m)、マイクロ(μ)などのいろいろな補助単位や、使用している単位によって表示される数字の桁数が異なるため、解りづらくなっています。まずグレイ(Gy)とは、人体の臓器や組織に吸収されるエネルギーの量を表す単位であり、吸収線量といいますが、次にシーベルト(Sv)を単位とするものとして、吸収線量は放射線の種類による違いを考慮した係数を掛けたものを等価線量といいますが、さらに臓器や組織ごとの放射線の影響を考慮した係数を掛けて足し合

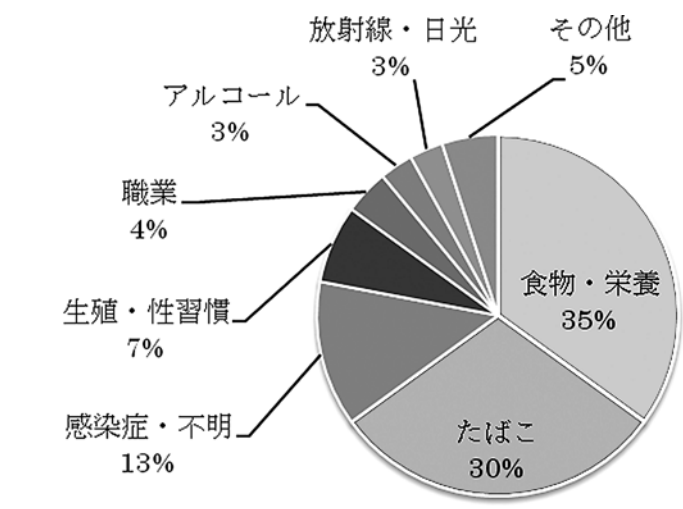
わせたものを実効線量といいますが、つまり臓器や組織ごとの影響を考慮する場合は等価線量を、全身を平均して考える場合は実効線量を使用します。そしてベクレル(Bq)とは、放射性物質が1秒間に放射線を放出する原子の数のことを表しています。このベクレルから実効線量に換算することは出来ませんが、被ばく状況に依存するため難しきものとなっています。またこの状況に依存するため難しきものとなっています。またこの状況に依存するため難しきものとなっています。



放射線の種類と透過力

アルファ線 … ヘリウムの原子核
ベータ線 …… 電子
ガンマ線 …… 電磁波
中性子線 …… 中性子

検査を受けることにより、慮していただきます。さらに撮病気の発見や、病気の状態把握ができるなど、そのリスク以上の利益を受けることができます。用した検査を受けられる方は安心して検査を受けていただけます。放射線科では被ばくに関する疑問について相談を受けていますので、お気軽に放射線科撮影受付技師が、診断が問題なく行え、なおかつできるだけ被ばくが少なくなるように適正な線量で撮影を行っています。また当院では、日本放射線技師会などでも出している撮影線量のガイドライン等も考



日本放射線技師会出版会「医療被ばく」より

日常生活とがんの原因

私の父は認知症です。認知症になって11年経ちました。母が父の介護をしています。父も母も80歳を越えています。老人が認知症の老人を介護する状況は、「認知症の老老介護」と言われます。平成19年から20年にかけて、我が家の「老老介護」の話を「けんこう家族」に書きました。あれから5年経ちました。今は我が家の「老老介護」のその後の状況を4回にわたって御報告いたします。

5年前の記事を読んでいない方もおられると思いますので、まず、当時の状況を振り返ってみます。11年前に始まった父の認知症の主な症状は物忘れでした。新しいことを覚えられず、今聞いたことをすぐに忘れ、同じことを何回も繰り返して聞くようになりました。はじめは、古いことは覚えていましたが、そのうち古いことも忘れるようになり、父が母の顔をみて、「あ

なには僕のおばあちゃんかい？」と言いました。これは母が一番ショックだったことに違いありません。母には多大なストレスがかりました。母がひとりでの介護をしていては、母の身体が持ちません。母を助けるために、ひとり暮らしの叔母(母の2歳下の妹)に頼み、時間のある時には両親の家に行ってもらうことにしました。私も休みの日には行くことにしました。私の姉夫婦も休みをみつければ両親の家に来てくれるようになっていました。そして、父をまじえて、交代で麻雀をはじめました。はじめた頃は、父はきちんとルールを覚えており、ひとりですべてできました。父の「ひとり勝ち」ということもあり、ルールを忘れ、ひとりではできなくなってきました。最近では、私が父の後ろにつきつきり、どの牌を捨てるか指示しなければやれなくなり、父が母の顔をみて、「あ

土日は我々が手伝いに行きますが、普段は母ひとりで父をみなければなりません。しかし、それは無理になってきました。そこで、介護保険を利用することにしました。介護保険を申請すると、主治医の意見書、ケアマネージャーの調査と意見書をもとに、介護判定が行われ、介護保険で支給できる金額が決まります。利用者はその限度額内で介護保険を利用することができます。ヘルパーを入れる、デイサービスを利用するなど、いくつかのサービ



精神科
部長
亀山 知道

認知症の老老介護

続編

介護保険の申請

ナースステーション

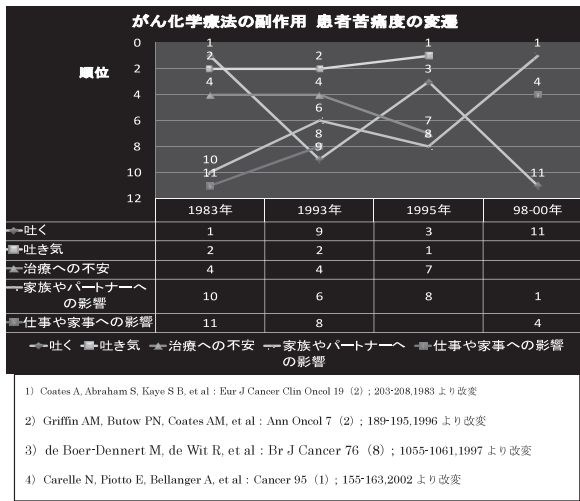
「がん化学療法を ご存知ですか？」



がん化学療法看護認定看護師
5階東棟副看護師長
柴谷 栄

「がん化学療法」とは、抗がん剤などの薬物による治療法で、手術や放射線治療とならぶ、がん三大治療のひとつです。日本では生涯がんを診断される人は、約2人に1人と年々増加しています。がんがんで亡くなる方の割合は1990年代後半から減少しています（高齢化の影響を除いた年齢調整をおこなった場合）。がん治療は、日々進歩しているのです。以前は、入院治療が多かったのですが、現在は外来治療が増えているのも「がん化学療法」の特徴です。

患者さまに安全かつ、安楽にがん化学療法を受けていただくための当院の取り組みとして、外来で化学療法を受ける患者さま専用の「外来治療室」の設置や「がん化学療法管理委員会」があります。「がん化学療法管理委員会」では、医師・薬剤師・看護師・医療相談員・医事課など多職種チームで月に1回、治療内容・薬の効果と安全、外来治療室の円滑な運営などを検討しています。また、がん化学療法の進歩は、治療効果だけではなく、副作用が少なくありません。副作用が少なくない治療薬の開発や副作用を予防・改善する新しい薬も増えています。また、社会の価値観の変化などから、辛いと感じる副作用も変化しています。（図のとおり）



小児科部長小野正恵医師が、厚生労働省などが主催する「平成23年度健やか親子21全国大会（母子保健家族計画全国大会）」にて、事業推進に功績のあった医師のひとりとして大臣表彰を受賞しました。（表彰式は平成23年11月10日福井県民ホールにて）

小野医師は、これまで21年間にわたり行ってきた遺伝相談業務および遺伝教育が評価され、この度の受賞となりました。平成22年に（社）日本家族計画協会から「小児保健における社会貢献および遺伝相談事業と人材育成への貢献」に対して表彰されたことも、今回の受賞につながっています。

小児科部長が「厚生労働大臣表彰」を受賞しました

小児科部長
小野 正恵

当院を退職しました
★平成23年11月30日付退職
西田 理子（小児科医師）



新任医師紹介

☆平成23年10月1日付採用

神経内科 医師
なる せ **成瀬 紘也**

10月に着任いたしました。誠心誠意診療に努めてまいります。よろしくお願いたします。

皮膚科 医師
あかまた かなめ **赤股 要**

皮膚科の出る膠原病を専門にしています。皮膚科一般の診察を行っておりますので、遠慮なくご相談ください。

☆平成23年10月1日付採用

放射線科 医師
つかはら やよい **塚原 弥生**

主に画像診断に従事しております。少しでも皆さまの健康に役立てるよう、頑張りたいと思います。

☆平成23年10月1日付採用

形成外科 医師
おずみ なつこ **小住 奈津子**

患者さまに納得した医療を届けられるよう、日々勉強していきたいと思っております。よろしくお願いたします。

☆平成23年12月1日付採用

小児科 医師
いたばし としかず **板橋 寿和**

子供たちが早く笑顔を取り戻せるように頑張っていきます。よろしくお願いたします。

形成外科 医師
どい しんすけ **土居 伸輔**

よりよい診察を目指すよう努力していきたいと考えております。よろしくお願いたします。

東京通信病院のご利用案内

～全科診療予約制を実施しています～

診療科

内科、内分泌・代謝内科、血液内科、神経内科、感染症内科、消化器内科、循環器内科、腎臓内科、呼吸器内科、精神科、外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、婦人科、小児科、眼科、皮膚科、形成外科、泌尿器科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科、歯科口腔外科、救急科、病理診断科

外来診療日

●月曜日～金曜日（祝日及び年末年始を除く。）

予約の方法・予約受付の時間帯等

●電話での予約…9：00～17：00
●電話番号…03-5214-7381

時間外（急患）診療

●連絡先…03-5214-7768（救急診療室）

診療受付時間

窓口	午前の診療	8：30～11：00まで
	午後の診療	12：30～14：30まで
	自動受付機（予約のある方のみ）	8：00～16：00まで

ホームページアドレス <http://www.hospital.japanpost.jp/tokyo/>
メールアドレス admin@tth-japanpost.jp

交通のご案内